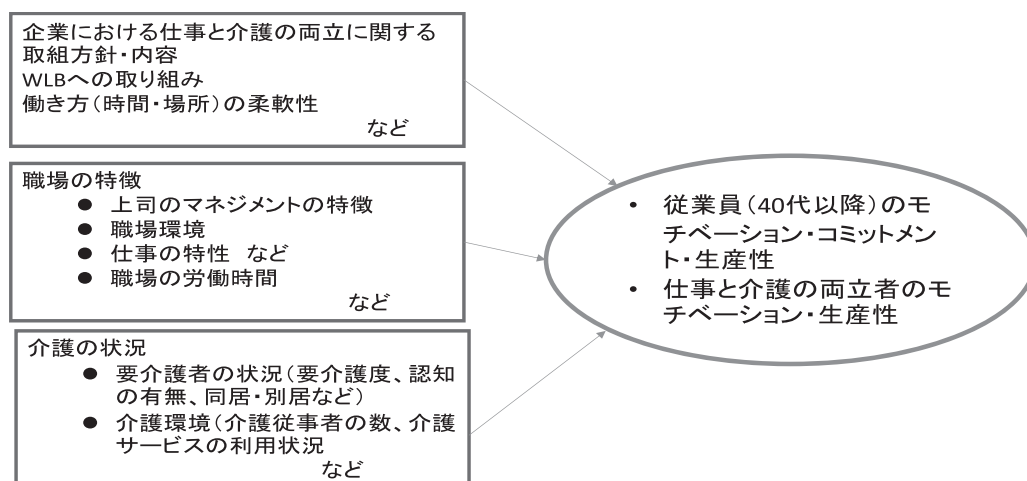


こうした背景のもと、中部産業・労働政策研究会（以下、中部産政研）では、同機関の賛助会員企業の一部を対象に「介護と仕事の両立に関するアンケート」を実施し、①介護と仕事の両立状況、②今後介護に直面する従業員の状況、③仕事と介護を両立するための条件、④介護に直面した場合のモチベーションやキャリアに対する展望などを明らかにすることとした。

2. 調査の方向性

上記目的に向け、本調査では①勤務先の介護と仕事の両立に対する従業員の認識、②職場の状況（マネジメント傾向、介護と仕事の両立に対する理解・支援など）、③介護と仕事を両立する従業員の状況、が従業員のモチベーションや組織コミットメントなどに与える影響を考察した（下図参照）。特に、介護従事者の就業継続意識や今後のキャリア展望の持ち方は、短期のみならず中長期の職場生産性に影響する。矢島（2014）²は欧州における調査で壮年期以降の介護従事者のモチベーションは、年齢的に将来のキャリア展望を描きにくくなることが影響し低下しやすいことを紹介している。本調査においても、介護従事者のモチベーションや就業継続意識を考察しておくことは、介護と仕事の両立に関する対応を検討するうえで重要だと考える。



¹ 中央大学大学院ワーク・ライフ・バランス&多様性推進研究プロジェクトでは、40歳以降の正社員でプロジェクトに参加する大企業6社に勤める2099人と、兵庫県下の事業所に勤める1482人を対象に介護の状況や仕事と介護の両立に対する不安や要望等に関するアンケート調査を実施している。詳細は『従業員の介護ニーズに企業はどうか—従業員の介護ニーズに関する調査報告書』（2012）を参照願いたい。

² 矢島洋子（2014）「欧州における仕事と介護の両立」佐藤博樹・武石恵美子編『ワーク・ライフ・バランス支援の課題』東京大学出版会